

各種災害リスクの把握および市街地現況を踏まえた、居住誘導区域の見直しの方向性（案）を下記に示す。

○：居住誘導区域に含める

ハザード種別			運用指針	対応状況 (避難体制等)	発生頻度と 被害規模	長野市 居住誘導区域 見直し方針	備考	
土砂災害	土砂災害警戒区域（イエローゾーン） (土砂災害防止法)		災害リスク、警戒避難体制の整備、防災施設の整備状況から判断すべき	<ul style="list-style-type: none"> 警戒避難体制が整備されている 土砂災害ハザードマップが全戸配布されている 自主防災組織が100% 	頻度：低 被害：中（範囲は限定的で、家屋への被害は小さいと想定される）	○	避難体制が確保されている、又は確保する	
	土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン） (土砂災害防止法)		原則として含まない		頻度：低 被害：大（範囲は限定的だが、家屋への被害は大きい）	除外済		
	地すべり防止区域 (地すべり等防止法)		原則として含まない	<ul style="list-style-type: none"> 何らかの対策がされている 地すべり施設は5年ごとに点検される 地元巡視員による目視調査が毎月実施される 	頻度：低 被害：大（範囲は限定的だが、家屋への被害は大きい）	除外する	運用指針で含まないと記されているので、除外する理由が明確である	
	急傾斜地崩壊危険区域 (急傾斜地法)		原則として含まない	何らかの対策がされている	頻度：低 被害：大（範囲は限定的だが、家屋への被害は大きい）	除外する		
洪水	洪水浸水想定区域 (水防法)	計画規模降雨 (L1)	想定浸水深0.5m未満	災害リスク、警戒避難体制の整備、防災施設の整備状況から判断すべき	<ul style="list-style-type: none"> 警戒避難体制が整備されている 洪水ハザードマップが全戸配布されている 自主防災組織が100% 	頻度：高（100年に一回） 被害：大（広範囲）	○	生命の確保を最優先とし、避難体制を確保する
			想定浸水深0.5m以上3m未満			○		
			想定浸水深3m以上			除外を検討		
	想定最大規模降雨 (L2)	想定浸水深0.5m未満	○					
		想定浸水深0.5m以上3m未満	○					
		想定浸水深3m以上	○					
家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸浸食・氾濫流）	想定最大規模降雨 (L2)		○					